

「事業名：福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み」 2019年度補助事業の実績・成果

東京農業大学 連携市町村：福島県浪江町

連携市町村との協定締結日：2019年1月31日 現地拠点：双葉郡浪江町役場庁舎(3階農林水産課内)

事業のポイント

■浪江町の農業復興のボトルネックとなっている“ソフト面”を支援するため、東京農業大学の“復興知”を結集し、①就農拡大への取組、②6次産業化推進の取組、③スマート農業推進の取組に資する各種事業を通じて、学生を中心とした現地での活動を展開させ、(株)舞台ファームとも連携しながら「産官学一体」となって農業再生のソリューションの提案を実施する。

今年度の活動実績

①浪江町における地元行政・農業者との意見交換会の実施(2019年7月30日)

農業“新興”のキーパーソンとなる農業者や行政との意見交換を行うことにより、現場ニーズに適合した事業実施につなげることができた。

②浪江町での就農拡大、6次産業化、スマート農業を推進するための各種プロジェクトの実施(2019年5月～2020年1月)

学生を中心に、新規作物として有望なペピーノの試験栽培、付加価値を高められるエゴマ、花卉の作業支援、農業の担い手育成に向けたヒアリング調査、ドローン講習会等の活動を現地で行うことにより、農業者との関係を強化できた。

③浪江町での農業セミナー、シンポジウムによる情報提供、活動成果の還元(2019年9月～12月)

新規の土地利用型作物として有望な小麦の講習会、スマート農業を実践するドローン講習会、6次産業化の講習会によって東京農業大学の研究成果を提供し、「活動報告書」や「6次産業化テキスト」の作成により活動成果を還元した。

④シンポジウム「福島県沿岸地域の農業再生と広域連携の課題」を実施(2020年1月25日)

農学系大学における被災地での取組や担い手育成に向けた基調講演によって取組と課題を共有すると共に、浪江町の農業の担い手確保に向けた取り組みを大学生などに向けて発信することができた。



今年度の成果

①浪江町での各種プロジェクトを通じた学生による農業支援活動による成果

ペピーノ、エゴマ、花卉といった品目別の農業支援活動や農業の担い手育成に向けたヒアリング調査など、延べ205名の学生が現地で活動を行うことにより、課題解決の方向性が明らかになった。

②ペピーノをはじめとする新規作物の試験栽培の本格化と加工品開発に向けた提案

ペピーノの試験栽培と共に学生のアイデアによる調理品・加工品の試食会を行い、新たな特産品としての可能性を高めることができ、浪江町に建設予定の「道の駅」(2020年7月開業予定)のお土産開発としても展開する。

③浪江町における営農再開における進展と6次産業化の推進に向けた成果

シンポジウム等により町民・農業者からニーズの高い集落営農組織や法人化に関する情報提供と、地域活性化に向けて「6次産業化テキスト」を作成するなど、農業“新興”に向け着実に成果を還元することができた。

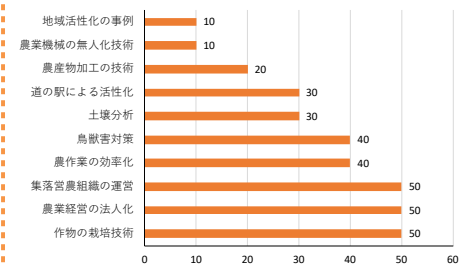


図1 参加を希望する講演会、農業セミナーのテーマ(複数回答)
資料：2019年12月14日・15日に実施した町民アンケートより作成。

補助事業の実績、成果① (2ページ以内)

○ 今年度の補助事業の実績、成果について記入してください。

● 連携市町村との連携協定締結状況

双葉郡浪江町 平成31年1月31日 締結

● 現地拠点状況

所在地：双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2 建物名 浪江町役場本庁舎 3階農林水産課内
常駐職員：無し

稼働日数：26日

● 今年度の補助事業の実績

- 2019 (令和1) 年6月8日・9日 藤橋地区佐々木圃場他で本学学生によるペピーノ、ジャカラダの定植作業を実施

目的 就農拡大・6次産業化推進を目的としたペピーノ、ジャカラダの定植作業の実施

参加人数 大学側 教員等 1名参加 (高畑健准教授)

本学学生 4名参加



- 2019 (令和1) 年7月30日 浪江町役場本庁舎で第4回実行委員会および地元行政と農業者との意見交換会を開催

目的 本事業の進捗管理と現場ニーズを吸収した事業運営を目的とした実行委員会と意見交換会を開催

参加人数 大学側 教員等 5名参加 (黒瀧秀久教授、高畑健准教授、井形雅代准教授、入江彰昭准教授、菅原優准教授)

地元行政および農業者 17名

(行政：副町長・小林弘典、農林水産課・清水佳宗、大浦龍爾、舟尾拓記、北原厚徳他)
(農業者：佐々木茂男、松本善郎、林浩二、松本伸一、和泉亘他)

- 2019 (令和1) 年8月5日 藤橋地区佐々木圃場他で本学学生によるペピーノの管理作業を実施

目的 就農拡大・6次産業化推進を目的としたペピーノの管理作業の実施

参加人数 本学学生 2名参加

- 2019 (令和1) 年8月10日・11日 石井圃場で本学学生によるエゴマの定植作業を実施

目的 就農拡大・6次産業化推進を目的としたエゴマの定植作業の実施

参加人数 大学側 教員等 1名参加 (入江彰昭准教授)

本学学生 4名参加

- 2019 (令和1) 年8月26日～30日 浪江町役場および訪問先農家において、農業の担い手育成に関するヒアリング調査を行った。

目的 就農拡大を目的とした農業の担い手育成のための農業者へのヒアリング調査を実施

参加人数 大学側 教員等 1名参加 (菅原優准教授)

本学学生 1名参加

- 2019年 (令和1) 9月13日 石井圃場で本学学生によるエゴマの摘心作業を実施

目的 就農拡大・6次産業化推進を目的としたエゴマの摘心作業の実施

参加人数 大学側 教員等 1名参加 (入江彰昭准教授)

本学学生 4名参加



- 2019 (令和1) 年9月21日 本学と連携する(株)マイファーム・アグリイノベーション大学校の受講生による現地研修 (役場、トルコギキョウ農家、(株)舞台ファーム圃場等) を実施

目的 就農拡大・スマート農業推進を目的とした現地研修の実施

参加人数 大学側 教員等 1名参加 (小川繁幸助教)

(株)マイファーム・アグリイノベーション大学校 受講生 5名参加

- 2019 (令和1) 年9月22日・23日 現地での農業セミナーとエゴマの管理作業を実施

目的 就農拡大・6次産業化推進を目的とした農業セミナー (小麦) とエゴマの管理作業の実施

参加人数 大学側 教員等 3名参加 (黒瀧秀久教授、高畑健准教授、西尾善太准教授)

本学学生 6名参加

- ・2019 (令和1) 年9月27日・28日 現地の花卉栽培農家での管理作業を実施
 目的 就農拡大・6次産業化推進を目的とした花卉栽培農家での管理作業の実施
 参加人数 大学側 教員等 1名参加 (井形雅代准教授)
 本学学生 3名参加
- ・2019 (令和1) 年10月26日・27日 現地のエゴマ栽培農家での管理作業を実施
 目的 就農拡大・6次産業化推進を目的としたエゴマ栽培農家での管理作業の実施
 参加人数 大学側 教員等 1名参加 (入江彰昭准教授)
 本学学生 5名参加
- ・2019 (令和1) 年11月16日・17日 ふくしまプライドと連携した現地のエゴマ収穫作業、
 ワークショップを実施
 目的 就農拡大・6次産業化推進を目的としたエゴマ収穫とワークショップの実施
 参加人数 大学側 教員等 2名参加 (黒瀧秀久教授、大塚寛キャリア課長)
 本学学生 28名参加
- ・2019 (令和1) 年11月23日・24日 現地の花卉栽培農家での管理作業を実施
 目的 就農拡大・6次産業化推進を目的とした花卉栽培農家での管理作業の実施
 参加人数 大学側 教員等 1名参加 (井形雅代准教授)
 本学学生 5名参加
- ・2019 (令和1) 年12月14日・15日 現地でのシンポジウム「浪江町の農業“新興”への挑戦」
 および農業セミナーの開催
 目的 就農拡大・6次産業化推進・スマート農業推進および現地での活動報告を目的とした
 シンポジウム・農業セミナー (ドローン講習会) の実施
 参加人数 大学側 教員等 6名参加 (山本祐司教授、黒瀧秀久教授、高畑健准教授、井形雅代
 准教授、入江彰昭准教授、菅原優准教授)
 本学学生 40名参加
- ・2020 (令和2) 年1月25日 東京都内でのシンポジウム「福島県沿岸地域の農業再生と広域連携の
 課題」の開催
 目的 就農拡大・6次産業化推進・スマート農業推進による担い手育成の活動報告を目的とした
 シンポジウムの実施
 参加人数 大学側 教員等 7名参加 (山本祐司教授、黒瀧秀久教授、高畑健准教授、井形雅代
 准教授、入江彰昭准教授、菅原優准教授、小川繁幸助教)
 本学学生 12名参加
- ・この他、福島イノベーション・コースト推進機構が主催する「福島復興学ワークショップ」には2回
 参加している。6月29日富岡町開催 (教員：黒瀧秀久、小川繁幸) 8月
 6日いわき市開催 (教員：黒瀧秀久・菅原優、学生2名が取組みを発表)
- ・現地での活動総日数 31日
- ・現地訪問教員等の総人数 実人数：33名、延べ人数：49名
- ・現地訪問学生の総人数 実人数：103名、延べ人数：202名



●今年度の補助事業に関する成果

- ①浪江町での各種プロジェクトを通じた学生による農業支援活動による成果
 ペピーノ、エゴマ、花卉といった品目別の農業支援活動や農業の担い手育成に向けたヒアリング調査など、延べ205名の学生が現地で活動を行うことにより、課題解決の方向性が明らかになった。
- ②ペピーノをはじめとする新規作物の試験栽培の本格化と加工品開発に向けた提案
 ペピーノの試験栽培と共に学生のアイデアによる調理品・加工品の試食会を行い、新たな特産品としての可能性を高めることができ、浪江町に建設予定の「道の駅」(2020年7月開業予定)のお土産開発としても展開する。
- ③浪江町における営農再開における進展と六次産業化の推進に向けた成果
 シンポジウム等により町民・農業者からニーズの高い集落営農組織や法人化に関する情報提供と、地域活性化に向けて「六次産業化テキスト」を作成するなど、農業“新興”に向け着実に成果を還元することができた。

大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業 2019

福島浪江町における農業“新興”に向けた取り組み ～担い手育成に向けて～



農 東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

2019年度事業の概要

●取り組みの概要：

浪江町の農業復興のボトルネックとなっている“ソフト面”を支援するため、東京農業大学の“復興知”を結集し、①就農拡大への取り組み、②6次産業化推進の取り組み、③スマート農業推進の取り組みを展開し、“復興”から一歩進んだ農業の“新興”を目指す。本年度は学生による現地での活動を本格化させたい。

2019年度の活動内容

① 就農拡大への取り組み

- ・学生による農業体験実習（6月～）
- ・浪江町の担い手育成に関するヒアリング調査（8-9月）
- ・社会人（株マイファーム）の新規就農支援活動（9月）
- ・（株）舞台ファームによる営農体験（10月）
- ・浪江町の農業復興計画への提言等（12月、1月）
（シンポジウムの開催；浪江町・東京都内）

② 6次産業化推進への取り組み

- ・新規作物等（ペピーノ、小麦）の提案・営農指導（5月～）
- ・地元産品の6次化支援プログラム（5月～）
（エゴマ、トルギキョウの商品化、ペピーノ加工試作）
- ・景観作物（桜、ジャランダ）の検討・検証（5月～）
- ・6次産業化支援テキストの作成（12月）
- ・農業セミナーの開催（12月）

③ スマート農業推進の取り組み

- ・ドローンによるスマート農業支援
（株舞台ファームによる圃場面積の拡大）



取り組みによって 得られる成果

- ①学生による現地活動の実施（信頼関係の構築）
- ②新規就農ビジネスモデルの構築
- ③帰還農業者・新規就農者の増加
- ④新作物・新商品開発による6次産業化
- ⑤スマート農業のいっそうの推進

ペピーノの栽培、六次産業化支援プロジェクト

・6月8日（土），9日（日）定植作業

・8月5日（月）除草作業



高畑先生、学生たち、浪江町の皆さま



浪江町の皆さまとペピーノ加工品の試食会



小麦支援プロジェクト

• 9月22日（日）



西尾先生による小麦栽培のレクチャー



高畑先生によるペピーノの経過報告



小麦の播種機

エゴマ栽培支援プロジェクト

• 8月10日（土）定植作業



石井絹江さん
の圃場



入江先生、学生たち、浪江町の皆さま

• 9月23日（月）除草作業

（稲刈りが雨で中止）



石井絹江さん
の圃場



黒瀧先生、高畑先生、学生たち、浪江町の皆さま

花卉(トルコギキョウ)栽培農家支援プロジェクト

- 9月27日(土)、28日(日)



井形先生、学生たち、
浪江町の花卉生産者



新規参入生産者(和泉氏)
の民泊「青田荘」に泊まり交流

担い手育成ヒアリング調査

• 8月27日（火）～30日（金）

稲作農家に訪問してヒアリング調査
（菅原先生、学生）



「ふくしまプライド。」と連携したエゴマ収穫、ワークショップ

• 11月16日（土）・17日（日）



エゴマ収穫・脱穀を指導する石井絹江さんと和泉亘さん

エゴマ収穫（中上）
エゴマ脱穀（中下）



「浪江町での就農モデル」をテーマにワークショップ



シンポジウム「浪江町の農業“新興”への挑戦」

・12月14日（土）・15日（日）

商品開発セミナーとワークショップ、ドローン講習会

学生と教員による活動報告



シンポジウム「福島県沿岸地域の農業再生と 広域連携の課題」

• 1月25日（土）



基調講演の講師
田代洋一氏

浪江町の農業・
佐々木茂夫氏



パネルディスカッション
の講師陣
(福島大、東京農
工大、農大)

